

新春対談 市長×市民記者

市民記者の中里さん、森下さんが、岡部市長に市政運営について聞きました。



(中里・森下) 明けましておめでとうございます。ごさいます。

(中里) 市長、昨年はどうのような年でしたか。

(市長) 昨年は新庁舎が開庁しての1年でしたが、市民の皆さんにご好評いただき喜ばしく思っています。また、新消防庁舎の開庁や、田沼・葛生行政センターが新たに開所し、拠点整備が進んだ年でありました。

(中里) 本日はいろいろなお話を聞きしたいと思しますので、よろしく願います。

(市長) よろしく願います。

観光立市・スポーツ立市としての取り組み

(森下) 2020年に東京オリンピックの開催を控え、国では観光誘客を4千万人にする目標を立てています。今後、ますます他国との交流が進んでいくと思いますが、市の取り組みを教えてください。

(市長) 本市は姉妹都市として、米国ランカスター市と友好協定を結んでおり、毎年相互の中学生がホーム・ステイをするなど、

教育の分野を中心に交流しています。平成26年秋には、私を团长として経済・文化の関係者約30名の訪米団が現地を訪問してきました。

(森下) 異なる文化を知るとともに、自分たちの文化を伝えるということが大切だと思います。姉妹都市以外の国とはいかがでしょうか。

(市長) 本市は「観光立市」「スポーツ立市」をリーディングプロジェクトとしています。

「観光立市」の施策としては、外国人誘客(インバウンド)に取り組んでおり、ムスリムの方々の誘客をしています。すでに佐野市を含んだ日本ツアーが実現するなど成果を上げています。

また「スポーツ立市」としては、クリケットによるまちづくりを推進しています。

クリケットの関係では2度、訪英団を派遣して競技団体や名門チームと協定を結んでいます。昨年4月、旧田沼高校を「国際クリケット場」としたことで、週末などクリケットを楽しむ外



市民記者
森下喜一さん
(仙波町)

国人の方が本市に来ています。今後もこうした取り組みにより、本市へ来る外国人の方も多くなると思います。

市民の皆さんには「おもてなしの心」でお迎えいただき、日本の文化や本市の文化を伝えていただきたいと思っています。

定住人口の増加について

(森下) わたしは中山間地域に住んでいます。地域の過疎化が顕著になっています。

(市長) こうした問題はいま日本全体で直面している問題で、根本には人口減少の問題があります。

本市では平成27年12月に、「佐野市人口ビジョン」と「佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し「安定したしごとをつくる」「新しい人の流れをつくる」「結婚・妊娠・出産・子育て」





市民記者
中里聖子さん
(栃本町)

ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」の4本を柱として、本市の定住人口が増えるよう、企業の誘致などに努めています。**(森下)**企業が市に誘致されても、山間部から市街地への転居が進み、山間部は高齢者ばかりになってしまわないでしょうか。**(市長)**各ご家庭の問題ですから、難しいところがありますが、市では高齢者見守りネットワークや、市営バスの運行、ふれあい収集事業などを通し、高齢者の抱える問題に取り組んでいます。人口減少の取り組みとしては今後「コンパクトシティ構想」を導入し、持続可能な行財政運営を図っていきます。

問題解消に皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。**交流人口増加にむけて「全国山城サミット」・「日本女性会議」****(中里)**昨年、今年11月の全国山城サミット、また2019年の日本女性会議、佐野市での開催が決定しましたね。地元に住む者として、唐沢山城跡を多くの方知っていただき、訪れて欲しいです。**(市長)**延べ4千人の方がお越しになる全国山城サミットの開催に向け、市内外の方々に唐沢山城跡を知っていただくとうと、市ではPRに取り組んでいます。昨年の紅葉の美しい時期には、観光バスで多くの方にお越しいただきボランティアの皆さんがご案内しました。2月には講演会の開催があります。市民の皆さんにも唐沢山城跡の歴史を知っていただき、全国の皆さんをお迎えできるように、国や県と相談しながら準備をしていきます。**(中里)**日本女性会議でも多くの関係者が来て、男女共同参画な

どについて話し合うそうですね。**(市長)**日本女性会議は2019年の開催で、2千人の方が参加するものです。本市は昨年「男女共同参画都市」を宣言し、男女が暮らしやすい社会づくりを行っています。大きな大会を本市で開催することは、多くの方が来るきっかけとなるだけでなく、知名度や認知度向上につながります。今後交流人口を増加する取り組みを図っていきます。**佐野市の未来について****(中里)**佐野インランドポートの開港や、(仮称)出流原PAスマートインターの実現化が見えてくるなど、今後の佐野市を楽しみにしています。**(市長)**インランドポートは私が長年取り組んできたものですが、いよいよ秋に開港を迎えます。これにより、本市が人とモノの物流拠点になるわけです。**(仮称)出流原PAスマートインター**は、現在、国とともに設置に向けた調査を進めています。出流原PA周辺を中心とした総

合物流開発を検討してまして、佐野インランドポートの拡張を視野に入れるとともに、新たな産業団地の造成を検討しています。**(森下)**若者が増え、過疎化に歯止めがかかるといいですね。さて市長、新年の目標は何かですか。**(市長)**今年も先ほどお話した総合戦略を着実に実施し、佐野市の創生に取り組んでいきます。国の地方創生という施策、インランドポートの開港といったいわば「天の時」、交通の要衝・自然災害の少ない地としての「地の利」、そして何よりもお住まいの方々の「人の輪」と本市は大変恵まれているわけですから。市民の皆さんには、この恵まれた市に誇りをもってください。本市の発展に引き続きご協力いただきたいと思います。**(中里・森下)**今日はいろいろな話題をお話いただき、ありがとうございました。**(市長)**ありがとうございます。

